

# 東京都公立幼稚園における研究活動

— 過去の歩みと将来の展望 —



安藤 寿美江

## 一、東京都教育庁指導部主催のもの

東京都公立幼稚園の教育内容を充実に向上するために、都が予算をとって研究活動を推進しているものには、研究協力幼稚園の制度と、研究協議会の二つがある。

### (1) 研究協力幼稚園

幼稚園教育上当面する問題を、具体的な幼稚園の実践活動の場において指導部と協力して研究解明し、その成果を公表して本都幼稚園教育の向上をはかるための制度である。

従来、この研究協力幼稚園をお願いするには、そのテーマを研究するのにふさわしい園を選び、その区の当業者の承諾を得て決めるという手順を踏んでいた。ところが最近はいよいよ変わり、先

ず、当面する問題をいくつか指導部であげる。そして、これを全部の指導室長会に示して各区の希望をとるのである。したがって以前にくらべ研究に対する自主的な傾向がみられるようになったわけである。研究期間は一か年で、公立六十六園に対し、わずかに一園である。できれば二、三園の研究協力校が欲しいし、期間も問題によっては二、三年継続でじっくり腰をおちつけて研究できるようにしたいものである。実は数年前までは二年間の研究協力校と一年間の研究協力校と二通りあったが予算の関係でまことに残念ながら二年の方が削られて今日に及んでいる。最近数年間の研究協力校およそのテーマは次の通りである。

昭和三十一年度

地域に即した教育課程の作成(二か年)(新宿区 四谷幼稚園)

地域に即した「自然」の指導 (一か年)

(荒川区 南千住第二幼稚園)

昭和三十一年度

劇あそびの指導

(台東区 富士幼稚園)

昭和三十三年度

体育的遊具の検討—ブレイスカルプチャーの試作—

(千代田区 淡路幼稚園)

昭和三十四年度

グループ活動の発達とその指導 (千代田区 番町幼稚園)

なお、研究協力幼稚園は、それぞれ専門の指導講師を中心に都の担当指導主事と共に一年間の継続研究を進め、その結果を誌上発表すると共に、実際指導を公開し、口頭発表をもおこなって公立幼稚園教諭のため研究の機会と資料を提供し、東京都幼稚園教育発展のため大いに努力し活躍していただくのである。

(2) 研究協議会

当面する幼稚園教育上のいろいろな問題に関し、専門の講師の指導を中心に、日頃の現場の問題と結びつけて研究協議し、本都教育の発展向上に資するために指導部が主催するものである。

昭和三十一年度

音楽リズムの実験研究

講師 東京学芸大学教諭 渡辺 茂

視聴覚教材の利用とその効果

講師 文部省事務官 青木章心

教育課程の基本的問題

講師 東京学芸大学教授 倉沢 剛

昭和三十一年度

幼児の栄養とおべんとう

講師 女子栄養短大助教授 上田フサ

指導のための調査とその処理

講師 東京学芸大学助教授 辰見敏夫

昭和三十三年度

幼児の科学性の芽生えをどのように育てたらよいか

講師 東京学芸大学助教授 湯本信夫

幼児の道徳性の芽生えをどのように育てたらよいか

講師 東京学芸大学助教授 品川不二郎

昭和三十四年度

音楽リズムの基礎的指導

講師 聖心女子大学助教授 水谷 光

指導計画に即した環境構成

講師 東京学芸大学助教授 角尾 稔

以上はここ二、三年来おこなわれた研究協議会のテーマおよび指導講師である。前に述べたように今までは講師の講演が中心で

あつたため、とかくその後の研究協議に盛り上がりの期待できない憾があつた。そこで今年度はこの会の形式を変え、先ずテーマに即した實際保育を会場園で公開し、引きつづき講師の話や協議にはいるよう計画したところ、参加者も予想以上に多く、協議も活発におこなわれ、主催者側はもちろん、現場の方たちにもたいへん喜ばれてまことに望ましい方向に進展した。

### (3) 東京都教育課程作成委員会

東京都教育庁指導部が主催する研究活動は今年度は以上の二つであるが、昨年、一昨年の二か年にわたつては東京都幼稚園の基礎的教育課程作成のための委員会が設けられたのである。そして学識経験者二名を含む十名の委員によつて、数十回の委員会が持たれ、この方面の都の中核となつて熱意ある理論と實際の研究が続けられた。その結果、東京都の幼児の実態が四才、五才の年齢別、一学期、二学期、三学期の時期別、六領域別に掘り下げられ、しかも、各項目の表現に、例えば、「手洗い、うがいが次第に自主的にできるようになるが、いわれなければできない子どももいる」―健康の四才二学期―のように、実態に即してはばが持たせてある。

そしてこの幼児の実態に即した環境の問題が具体的にあげられ、これらから導き出された指導の目標、この目標を達するため(4)に選ばれた望ましい経験という四つの観点から、幼稚園教育にお

ける指導内容の全貌をおさえた基礎的教育課程が中間報告による公立六十六園の意見も加えて研究されまとめられた。なお、この基礎資料を中心に作成の基本方針および年間の単元例(年令別設定の理由および目標をそえて)と、数種の展開例(一つの単元、週案、日案、年少児の場合、年長児の場合など)をそえた。ある見方からすれば、現場の方には不親切であるかもしれないが、文部省の幼稚園教育要領を東京都の地域に即して具体化したものである。したがつて各園の指導計画として、そのままは使えるがその作成の資料としては、じゅうぶん活用してもらえよう考へたのである。しかしこれも現場の實踐と共に検討されつつあるであろうし、今後の発展を大いに期待しているわけである。

## 二、東京都教育研究所主催のもの

東京都教育研究所では三十年來問題にされながら、容易に解決の手のさしのべられなかつた幼稚園教育と小学校教育の一貫性、つまり幼小関連の問題についてとりあげ、数年來大いに努力し、担当にその効果をあげてきたのである。幼稚園および小学校低学年の教師を対象に、年間数回の講座を開いて、講演、分科会、研究協議会などいろいろな形で両者にわたる幼年期の教育の問題点とその具体的方法についての研究を促進してきたのである。これ

はおそらく東京都の幼年教育研究活動の中軸ともいべき唯一のものであったと思うのである。ところが、幼稚園側のメンバーは変わらないが、小学校側は毎年ほとんど変わってしまったので、研究のつみ重ねができにくいのはまことに残念であった。今年度は幼稚園各方面の強い要望に答え、その対象をせばめ、公立幼稚園主任教諭の研修会とし、教育課程の問題にしばって次のような講座がおこなわれた。

幼稚園における教育課程の構造について

講師 お茶の水女子大学

坂元彦太郎

年間指導計画作成上の留意点

講師 都教育庁指導部

安藤寿美江

発達段階に応じた運動能力とその指導計画

講師 教育大学

松田 岩男

社会性の伸長とその指導計画

講師 玉川大学

日名子太郎

「自然」における地域性の生かし方と指導計画

講師 学芸大学

湯本 信夫

発達段階に応じた発表能力とその指導計画

講師 埼玉大学

野間 郁夫

基礎リズムの積みあげとその指導計画

講師 教育大学

松本千代栄

発達段階に応じた材料の与え方と指導計画

講師 学芸大学

角尾 稔

三、東京都公立幼稚園教育研究会

東京都公立幼稚園の先生がたで組織しているこの会はその目的の一つに幼稚園教育内容の刷新向上をあげて、自主的にいろいろな研究活動を続け、年々その実をあげつつある。

本年度は、講演二回

子どもの精神衛生について

講師 千葉大学

望月 衛

海外の幼児教育

講師 東京大学

三木 安正

研究協議会二回、実際保育を中心とした研究会二回、研究発表会一回の多彩な研究計画のもとに活発な活動を展開している。

また、この会の支部ともいべき各区の幼稚園教育研究会もそれぞれ地域に応じた問題と取り組んで、熱心なグループ研究がおこなわれている。今年の各区のテーマの一部は次の通りであるがこの研究の成果は毎年いくつかずつ東京都公立幼稚園教育研究会の全体会で発表され検討される。

○どんな絵本が幼児に好まれるか

(千代田区)

○問題児の観察記録の研究

(文京区)

○体育的あそびの調査

(中央区)

- 紙芝居と幻燈のライブラリ (同)
- 地域に即した言語指導 (新宿区)
- 環境構成の研究 (同)
- 幼児の道徳教育 (同)
- 視聴覚教育について (台東区)
- 知能検査について (同)
- 学校保健法について (同)
- 健康教育その他 (港区)
- ラジオ・テレビをどのように活用するか (荒川区)
- 指導計画に即した環境構成 (足立区)
- 問題児の指導 (江戸川区)
- P・T・Aの持ち方 (同)

#### 四、将来の展望

前述の通り、都公立幼稚園の教育内容の充実向上のため、内外各方面からその研究活動が促進されてきたのである。しかし、これらの推進力に摩さつや無駄のないよう従来、指導部・研究所・都幼教の三者が話し合いの上、年間の計画を立ててきたが、今後はこうしたことを一層強め、いたずらに研究の分野を拡げるよりも、三者の協力によって、問題をしぼり、深く掘りさげる方向に

いきたいと話し合っている。また研究内容も単に理論のみでなく、実技もとりあげて、こうした面からも指導力を高める計画も考えている。

また、指導部では、すでに小・中学校におこなっている教育研究員制度を来年度は是非幼稚園の先生がたにも実施してもらいたいと考えている。これは各区の教育推進力となる教師を何人かえらび、年間協力して一つのテーマを研究し、夏期休暇には宿泊研究集会もおこなってこれをまとめ、発表をする研究活動である。

東京都公立幼稚園における研究活動はこのように多面的におこなわれているが、問題は現場の各教師の日々の指導に対する課題意識の有無である。自分の仕事に悩みを持ち、これを解決しようとするところに真の研究活動は生まれ、そして育つ。せっかくの栄養素もよく咀しゃくし、のみこまなければ効果はない。したがって研究会も協議会も問題を持たない人の集まりでは決して盛りあがらないし発展性もない。反面現場の問題がスムーズに取りあげられ検討されるような研究態勢も必要である。とにかく、研究会のため表面的な研究ではなく、真に現場の問題解決のための実質的な研究活動の盛り上がるよう反省しなければならない。

(東京都指導主事)